

「ネパール・ランタンプロジェクト、OCUAC」

ーランタン谷と峰々に魅せられて、夢の途中ー

兵 頭 渉

大阪市立大学山岳会、2015 年ランタン・リ（7205m）登山隊

1961 年春、大阪市大山岳部・山岳会はネパールヒマラヤのランタン・リルン峰（7245m）に登山隊を出しましたが、第三キャンプが雪崩に襲われ 3 名が犠牲となった。日本隊として初めてのヒマラヤ遭難であった。1964 年春、第二次隊がリルン氷河ルート、東南稜ルートから登頂を試みたが敗退した。隊はこの後ランタン氷河を遡りウルキンマン峰（6151m）、モリモト・ピーク（ブンダン・リ 6150m）に初登頂した。1978 年秋、第三次隊がリルン氷河ルートから初登頂した。三次隊がカトマンズへの帰路、これから年を越しにランタン村へ向う貞兼さん（現：ランタンプラン代表）と出会い、カトマンズから持ってこられたランタン・リルン峰初登頂の新聞記事を頂いたことが当会の報告書に残されている。一方、貞兼さんは著書「風の記憶-ヒマラヤの谷に生きる人々」（春秋社 2007/10）に登山隊と出会った際の複雑な心境を記されている。

2010 年春、50 回忌墓参団を編成しリルンベースキャンプ及びランタン村の墓碑にて法要を営んだ。この時、ランタン谷の素敵な峰々への登山が話題に上り、ランタンプロジェクトとして立ち上げた。



（ツェリコ・リ山腹からランタンリルン 2007/10）



（50 回忌墓参 ランタン村・墓名碑前にて）

2011 年秋、東日本大震災の年、春から秋に延期し、会員 3 名がグルカルボ・リ（6891m）に登山したが、降雪と雪崩で登山を断念した。

2012 年春、会員 2 名がサルバチョム（6912m）に登山したが、氷崖に阻まれて失敗した。



（グルカルボ・リ 2011/10 赤ルート：登行）



（サルバチョム 2012/04 ）

2013 年春、“三度目の正直”と会員 5 名がドルジェ・ラクパ（6966m）に登山した。しかし、C 2 上の氷のリッジと段差が越えられず、アタックは失敗した。



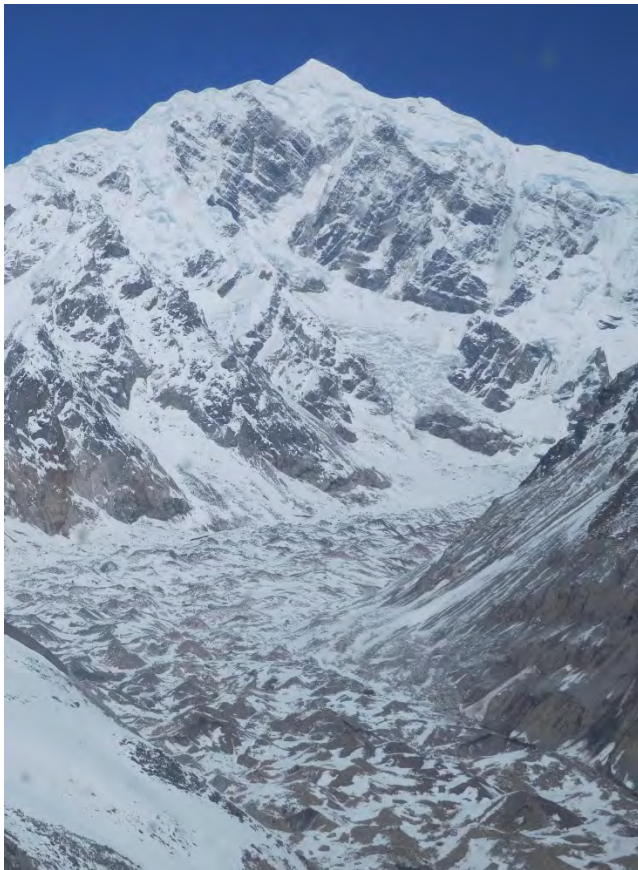
（ランタン氷河奥の山々、左からゲルパ・リ、インボガン、ドルジェ・ラクパ＝ルートは山頂から右に延びる稜線、）

2014 年春、この年の目標をランタン氷河第二の高峰、ランタン・リ（7205m）に定めた。外部から三名、会員四名、全員が 60 歳以上、元気潑刺の登山隊というには、ちょっと力不足であるのは否めない。しかし、ハートは若者にけっして引けを取らない。C 2 を建設し、いよいよアタック体制も整い、頂上は手にしたと思った。しかし、稜線上に開いたクレバスが越えられず、またも登山は失敗した。

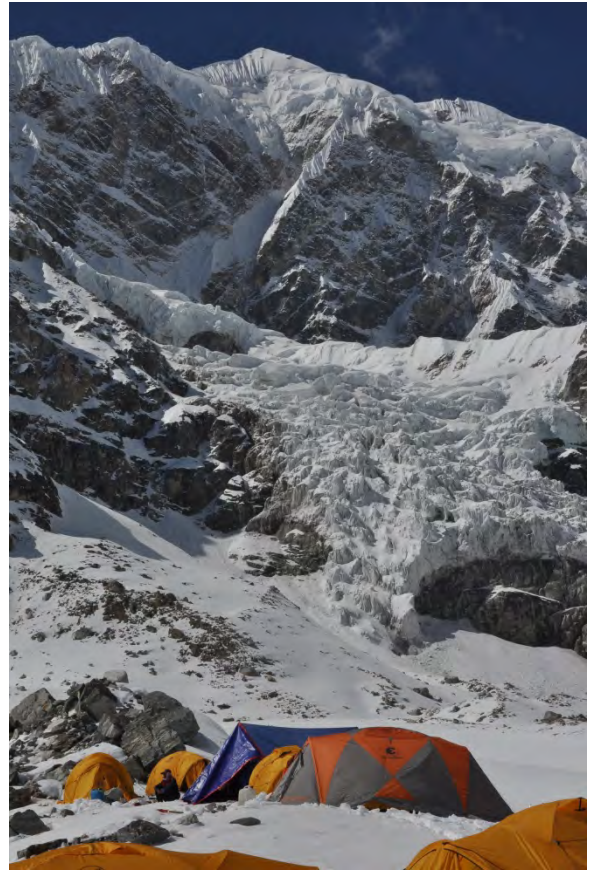
サルバチョム、ドルジェ・ラクパ、ランタン・リ、これらはみな、初登頂時の報告書に書かれたルート状況とは全く違っていた。ランタン・リルンの東南稜も同様だ。温暖化によるのは氷河の後退だけではない。稜線上でも段差やクレバスが発達して、越えられない所が出てきた。ルート上の雪が減り、青氷が露出している所が増えてきた。つまり、登りにくくなってきたのだ。

2015 年春、さすがに温厚な山岳会からも非難が出た。度重なる失敗、次なる目標をどこにするか。いろいろと考えたが、とにかく成功をしなければ話にならない。それにランタン・プロジェクトは五ヵ年計画だった。それでランタン・リ再挑戦に落ち着いた。クレバス突破のためにアルミ梯子を四台持っていくことにした。メンバーは 4 名、皆去年の経験者たちだった。

4/10 シャブルベシからキャラバン開始、4/12～4/19 天候不良でヘリが飛来できずキャンジンゴンパに停滞、毎日午後降雪。4/20 ヘリで BC（5300m）入り。4/21 BC 建設。4/22 安全登山と山の神への感謝をこめてブジャのセレモニー。C1 予定地へ荷揚げ。4/23 荷揚げ、C1 建設と C2 ルート偵察。4/24 BC で休養。明日 8 名全員で C1 入りを決定。4/25 天候が思わしくないのでもう一日 BC で休養と決定。朝食後めいめいの時を過ごす。



(ランタン・リ 2015/04/20 BC へのヘリ機上から)



(2015/04/21 BC から山頂を真北に望む)



(ランタン氷河最奥の BC 予定地、小高い丘の上に設営した。雪崩の被害を免れた一要因と考えている。
ほぼ真南方向に未踏峰ゴルドゥム 6620m、右遠方にランサ・リ 6427m)

4月25日11時47分（現地時間）頃、2～3回の縦揺れ、直後に横揺れ、震源は近い。震度は私の体感では4強～5であった。同時にドーン・ドーンと音がし周囲の峰、稜線から雪崩が発生したことを想起させた。テントから出て様子を伺うと5700m以上は雲に覆われて視界なし、突然BC東側から雪煙

がモクモクと膨らみながら襲いかかってきた。私はテントに飛び込みファスナーを閉め、体を丸めてやりすごしそうとした。テントは暴風に叩かれバシバシという音と共に雪が降り注いだ。数分のちに収まったので外に出るとメス TENT、キッチンテントが倒壊。他の隊員テントには吹き込んだ雪が堆積していた。

一時間半後にエージェントと連絡が取れ、ミンマさん (Seven Summit 社長) と衛星電話で話をする。全員無事と二週間くらいは BC で待機可能であること、梯子を運んでいるポーターの所在が確認できていない旨通報、ミンマさんからエベレストでの救援活動が終わり次第、ヘリコプターで救援に行くと話であった。

4/26～27 ヘリ来たらず。雲が晴れて見渡すと周囲の峰々は様相が一変。ランタン・リの山頂は優雅な雪の稜線からギザギザの荒々しい稜線に変貌していた。



(2015/04/22 雪の帽子を被ったランタン・リ)



(2015/04/26 山頂の雪が崩落 ランタン・リ)

4/28 Manan Air のヘリで BC (5300m) からキャンジンゴンパへ。キャンジンゴンパのすべての建物はリルン氷河の雪崩、爆風で大きな被害を受け住民、トレッカーは天幕や、テントで生活していた。ゴンパは祭壇の一部を残し崩壊していた。

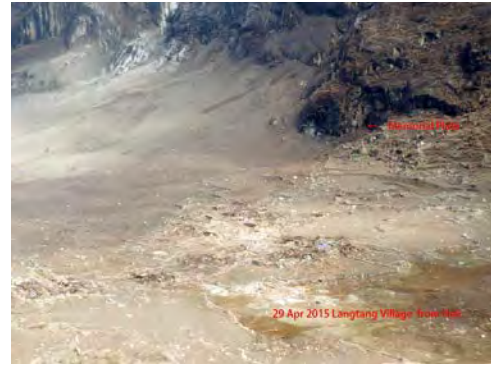


(地震、爆風で屋根、壁が崩壊した ゴンパ)



(地震、爆風で壊れたキャンジンのロッジ)

4/29 キャンジン～ドンチェ、ヘリから見たランタン谷の被害は凄まじく、ランタン村は灰色のデブリで覆われ、村があった痕跡は見当たらない。わずかに当会のメモリアルプレートの塚と民家が一軒だけ確認できた。奇跡としか言いようがない。村民 200 名、トレッカー 100 名が犠牲になったそうだが、詳細は不明だ。



(地震後 2015/4/29 対岸まで達した雪崩)

(地震後 2015/4/29 デブリに覆われたランタン村)

ドンチェでヘリを乗り換え、カトマンズに帰着した。カトマンズ市内は暗闇に沈み開いている店もまばらだった。多くの市民が郊外の村に疎開、テント生活の人々がひっそり行きかっていた。隊員はホテルがクローズされているため、ミンマさんの自宅の庭に張られたテントで二晩泊まった。同じところにミンマさんの家族、親類も身を寄せていた。

5月2日に成田に着いた。ベースキャンプからキャンジン、ドンチェ、カトマンズ、成田まで5日だった。ネパールの人達の援助と幸運に恵まれて今ここにいる。ネパール大地震の様子が様々なメディアで報告されている。余震、モンスーンで、生活再建がなかなか進んでいない様子に心が痛む。しかし、ランタンプランのブログでは、かつての美しいランタン村を再建しようとランタンの若者が活動している様子が報告されている。ランタン谷と取り巻く峰々を訪れることが早く来ることを祈りつつ復興支援に関わっていきます。



(2010/5 キャラバン2日目でランタン村が見える)

(2010/5 ランタン谷のヤク、ゾモ)

(在りし日のランタン谷)

了

(本文の一部に当山岳会会報 60 号に掲載された会員・和田氏の文章を転記しています。

写真は全て兵頭、和田が撮影したものです)